

文化庁委託事業

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

地域日本語教育実践プログラム（A）

「生活者としての外国人」のための日本語教育

日本語教室及びボランティア教室

活動アイデア集

教材作成担当：宮崎妙子

日本語ボランティア教材作成チーム

【教材作成にあたって】

本事業の委託が今年で2年目になる九段日本文化研究所日本語学院では、初年度に「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集」に沿った教材が学院内部の方々の手で作成されました。すでに教材が作成されている今年は、どのようなものを作ればいいのか試行錯誤の末、教材をこれまでとは異なる視点から捉えることにしました。

教材を作成するにあたっては、教材作成関係者が教材が使用される場をどのように捉え、その場にどのような理想を抱き、その教材をどのように使用してほしいかから始めなければならないでしょう。

「地域日本語教室」とは、関係者により解釈も異なり、意味づけもさまざまあると思いますが、主に運営側を担うボランティア（日本人）といわゆる学習者（外国人）の両者が集まる場であることに異論はないでしょう。しかし、その先が少々、分かれるようです。

地域日本語教室に参加する方たちは成人です。外国人参加者は日本語を十分にご存知ではないかもしれませんが。しかし、頭の中にはいろいろな知識、さまざまな思いや考えをお持ちです。日本人参加者も同様でしょう。その人たちが集まる地域日本語教室が単に日本語学習だけの場であるのは「もったいない」ように思います。「地域に暮らす日本人・外国人が参加し、ともに学ぶ。その結果、その地域でより心ゆたかに暮らせるようになる」ことを求める場が地域日本語教室ではないでしょうか。これを具体的に説明するために、2人の研究者のこぼれ話を紹介します。

まず、「凱風館寺小屋ゼミ」を主宰していらっしゃる内田樹先生です。凱風館は「新しい出会いを生む拠点」として、さまざまな活動が展開されています。

ここは大量に行き交う言葉を浴びるように聞く場です。（略）
知識を一方向的に流すのではなく、双方向的でもない。多方向的にゼミ生が意見を交換する。（略）自分の考えをまとめる訓練をする。頭の中で作った意見を出力するのではなく、しゃべりながら考えて結論に持って行く生成的な言語活動です。（略）
他人の話を聞いて「そう言えば」と思い付くのが知性の発動です。

頭の中をひっかき回して活性化する場合（略）

（2015年1月6日東京新聞朝刊「知でつながる^[2]」内田樹）

地域日本語教室はまさに「多様な人々がつながり、新しい出会いを」生んでいきます。そこには生成的な言語活動が生まれ、そこでは知性が発動され、参加者たちは「頭の中をひっかき回して（自らを）活性化する」、そのような拠点を目指せればと思っています。

内田先生の「拠点」は外国の方ではなく、日本人が集まる場ですが、やってくる人々を「多様」とおっしゃいます。まず、この感覚を日本人ボランティア※間で共有できればと思います。日本人の間にも異文化・多文化があり、教室参加のボランティアは異文化・多文化を携えて教室に参加している。ことばにすれば「当たり前」で済まされがちなこの事実をどうすれば、改めて「実感」できるのか。（自問1）それができる「教材」があればいいと常々思っています。

上のような拠点をつくるためには、まず、その土台として外国人参加者に日本語学習や日本文化への理解が必要ではないか、との意見があるでしょう。確かに必要でしょう。しかし、この点に重点を置き過ぎると日本語や日本文化の提供者はほとんどの場合、日本人であるために、「指導者」ということばが使われ、教える側から教わる側への一方的な流れが教室に固定してしまう恐れがあります。外国人が常に受け身で感謝を述べる立場にあり、日本人はいつも「ありがとう」を言ってもらう立場では、関係者全員が「心ゆたか」になれるかどうか、また、多方向的な学びの場として意識化されるかどうか疑問ではないでしょうか。

次に伊東祐郎先生のことばを紹介します。

各地域で展開されている日本語教室の活動はその目的によって様々です。ここでは、主に二つの活動を取り上げてみます。まず市民ボランティアが教師となって教科書を基に学習者に日本語を教えることを目的とする活動です。もう一つは日本人、外国人が交流を通してコミュニケーションを図りながら相互理解を深めることを目的とする活動です。どちらにも良さはありますが、地域における日本語教室が地域の国際化・多文化化の最前線にあるということを考えるならば、文化や価値観の異なる者が、コミュニ

※ 日本人以外の方がボランティアに参加している教室もあります。

ケーションを通して他者との違いや共通点を理解し合ったり、コミュニケーションの在り方を学び合ったりする空間になることが、必要になるのではないのでしょうか。外国人も日本人も地域住民としてできることを考えたり、お互いに協働で何かに取り組んだりすることによって、それぞれの社会参加や自己実現につながり、そこで育まれた人間関係が多文化共生の地域社会作りの基盤となっていくという点で大きな意義があります。地域における住民同士が、異なる文化を持つ人々の発言に耳を傾け、その人たちの考えや行動を考えられるようになることによって、日本語教室はまさに多文化共生の拠点となる可能性を持っています。

「文化庁月報」 8月号（2011）※

では、「多文化共生」とは何でしょう。総務省は次のように定義しています。

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

「多文化共生の推進に関する研究会報告」（06年総務省）

しかしながら、現実はそうはなっていないと宮島喬さんは言います。

「日本では多文化共生というと、すぐ外国人になにかしてあげるという話になる。日本語指導が大事とか通訳が大事とか。確かに大事ですが、彼らがどんな文化を持ち、どんな希望を心に抱いているかを見ていない」

「築こう多文化共生社会 宮島喬さんに聞く」
（日本経済新聞 2012年2月18日夕刊）

多文化共生を実現していくためには、地域日本語教室は外国人参加者が日本語を勉強するだけでなく、日本人参加者も学ぶ場であることが望ましいと思われます。日本語教室と名前がついているため、「日本語を勉強するのだろう」「日

※

http://www.bunka.go.jp/publish/bunkachou_geppou/2011_08/special/special_02.html

本語を教えるのだろう」と思われがちですが、たとえば学校の教室は「教科を勉強する」「教科を教える」だけの場でしょうか？参加する人たちが関係をつくり、学びあい、成長し、社会参加をしていく場ではないでしょうか？そのような場づくりのために何をどうすればいいのでしょうか。役立つ「教材」とはどのようなものなのでしょうか。（自問２）

また、地域日本語教室に参加する外国人の思いを知るためには、どのような「教材」があればいいのでしょうか。（自問３）

「日本人がこわくなくなった」という声を聞いたことがあります。日本に来たばかりの外国の方はことばもわからないし、日本人のパフォーマンスにも違和感をもっていらっしゃるかもしれません。そんなとき、日本という土地で日本人を「こわい」（＝不安・心配）と感じられるようです。けれど、地域日本語教室に通ううちに日本人や日本語に慣れてくる。そして、上述の発言「こわくなくなった」が出てきたのだと思われます。つまり、地域日本語教室は外国の方が日本人に慣れ、日本語に慣れて日本社会に参加していくための準備段階の場でもあると考えられます。このことは外国の方だけではなく、日本人にも言えるのではないのでしょうか。引っ越してきた新しい土地では知り合いもなく、その土地の習慣もわからず、寂しい思いをするものです。日本人ボランティアにとっても日本語教室は地域参加への入り口のように思えます。

「日本人がこわくなくなり」、実社会に参加する勇気がでてくると外国の方々には日本語教室を去っていかれます。そして、数年後に教室に戻ってくる方もいらっしゃいます。そのような方の日本語に何度、驚かされたかわかりません。とどまることなく日本語を話し続ける彼女たちに「どうして、そんなに上手になったの？」と問うと、「ママトモと話していたらこうなった」「パートで働いていたらこうなった」などのことばが返ってきます。

「ママトモと話していたら」「パート先で話していたら」というのは、安心して話せる相手がいる、話したいことがある、聞いてくれる人があるという場の存在を意味し、そのような場があれば、日本語は話せるようになるようなのです。ここで大切なことは、上記、内田先生のおっしゃる、「（みんなの話を聞いていたら）そう言えば」と思い付くことがあり、それを言いたい、聞いてもらいたい、聞いてもらえる関係をつくることではないのでしょうか。このような関係ができている場では、リラックスして話に加わっているうちに日本語が流暢になるということのように思えます。

再び、地域日本語教室に戻ってくる彼女たちは、「時間ができたので」「子どもが大きくなったので」、「今度は、漢字を習いたい」「読めるようになりたい」と

の明確な目的をもっていらっしゃいます。より深く社会に参加したいとの意思表示だと言えないでしょうか。

地域日本語教室を拠点にし、学びの場とし、社会参加への入り口にするにはどのような「教材」があればいいのでしょうか。（自問４）

以上、４つの疑問（自問１～４）を自らに問いながら、参加する外国人・日本人が関係を築き、地域を考え、社会の構成員として社会参加していくためのスプリングボードになるような活動が教室に起こればいい、そのための「教材」ができたらの思いで本事業に取り組みました。そして、「教材」ではなく、考え、話し合い、自らを表現し、お互いを知り、尊重しあい、いい関係を築くことに結果的に結びつくような活動集を作成したいと思いました。

地域日本語教室は、日本人同士の中にも存在する「異なる文化」に気づき、認め合い、お互いを尊重し合うことから始まるのではないかと、そのためには、ボランティア養成講座に人間関係づくりのためのプログラムがあればいいと考え、第１部はボランティア用とし、第２部は地域日本語教室用として、外国の方と日本の方が話し合い、学びあい、お互いの関係性を深めていけるような活動、参加者間でお互いに「ありがとう」が交わされるような活動を取り上げたいと思いました。第３部は教室を飛び出し、地域の施設の訪問や見学をしながら、教室内とは一味違うスタッフとの交流を深める活動を取り入れました。それにしても体感しなければ体験にならず、文字でどこまで説明できるのか、私の意図がどこまで文字を通して伝わるのか、非常に心もとなく感じています。

しかし、本事業に対する文化庁の狙いは、成果物としての教材そのものだけではなく、縁もゆかりもなかった市民が集まり、地域の外国人をテーマに話し合い、社会を考えていく活動とそのプロセスにあるのではないのでしょうか。九段日本文化研究所日本語学院による本事業のひとつ、「ボランティア養成講座」終了後に、有志の方々が千代田区に「**ちよだ日本語カフェSwan**」を立ち上げられました。その中に「教材作成グループ」が結成され、今回の活動集作成に協力してくださいました。これから「**ちよだ日本語カフェSwan**」で実際に使用し、修正、改正を加えていってくださることを願っています。

【活動集をお使いいただく前に】

- ・ 目的と目標

地域日本語教室に集まる外国人・日本人がより心豊かな生活ができるように、活動を通してともに学び、尊重しあう関係づくりを目指しています。

- ・ 構成

活動集は3部からなり、第1部にはボランティア間で、第2部と第3部には日本語教室で使っていただく活動を収めました。さらに、第2部では教室内での活動を、第3部では教室を離れて外に出るの活動を取り上げています。

第1部と第2部の活動では「準備」「進め方」の説明に続き、これまでの実践から得られた知見ノウハウや経験知をもとに「注意点」、「期待できること」などを加えました。また、「やってみて」は本事業の一環として実施された「地域住民と外国人の相互理解を支援する日本語講座」からの実践報告に加え、他地域での活動記録から抜粋して掲載しました。

- ・ 用語の説明

日本語を学習するためにやって来た人たちを「参加者」、日本語教室を運営する側を「スタッフ」と呼びます。

- ・ どんなときに使うか

活動は「日本語学習の隙間にやってみる」くらいの軽い気持ちで使っていただければと思います。同じ活動でも、内容を入れ替えれば、そして、メンバーが少し変われば、何度でも楽しむことができるでしょう。

- ・ どのように使うか

活動への参加は決して強制ではありません。すべて各人の自由意志に任せましょう。「参加しない」という選択もひとつの「参加」として、その理由を話してもらうことによって活動の意義が広がるでしょう。

九段日本文化研究所・日本語学院平成26年度作成教材『「生活者としての外国人」のためのコミュニケーション』を参考にお使いください。

<目次>

「教材作成にあたって」

「お読みいただく前に」

第1部

- ・ ひとり1分自己紹介
- ・ 部屋の四隅
- ・ 誕生日の輪
- ・ **KJ**法で話しあおう
- ・ いいところ探し

第2部

- ・ 自己紹介
- ・ わたしの4つの顔
- ・ カルテ
- ・ 部屋の四隅
- ・ 名刺交換
- ・ 物語をつくろう
- ・ どこで食べたい？
- ・ 誕生日の輪
- ・ わたしの宝もの
- ・ ありがとうカード
- ・ ふりかえり

第3部

- ・ 病気になったら
- ・ 図書館へ行こう
- ・ 消防署へ行こう
- ・ 防災館へ行こう
- ・ 防災に関するアンケート

「リンク集」

第 3 部の表紙

- ・ 病気になったら
- ・ 図書館へ行こう
- ・ 消防署へ行こう
- ・ 防災館へ行こう
- ・ 防災に関するアンケート

第1部 ボランティアのために

ボランティア養成講座やステップアップ講座などで使われている活動を紹介します。

地域日本語教室を運営していく人たちが同じ目的、目標に向かって歩んでいくためにはボランティア間によい関係を作っていく必要があるでしょう。お互いを認め合い、尊重しあえる関係作りのために講座だけではなく、ボランティア間の関係を深める目的で、日常の活動の合間に楽しんだり、ミーティングの手法として取り入れたりすることができると思います。

ひとり 1 分自己紹介

ボランティア養成講座やブラッシュアップ講座の初回では、初めて会った方々がお互いを知るための自己紹介をします。それぞれの方にその人なりの自己紹介をしていただくのもいいでしょう。けれど、時間的な制約がある上、内容に関する個人差があり過ぎると、時間をかけた割には印象に残らないものになってしまうかもしれません。そこで、次のような自己紹介はいかがでしょう。

♪ 準備

会場は、5，6 人のグループができるよう、椅子と机を配置しておきます
B4 サイズのコピー用紙を各人に一枚ずつ用意します。

♪ 進め方

- ① ファシリテーターは全員に「お互いをよくご存知でしょうか？」と尋ね、大半の受講者が「よく知らない」ことを確認します。「では、どうしましょう？」と問いかけ、「自己紹介」という声を受けて、「自己紹介をしましょう」と呼びかけ、4 項目限定の自己紹介である旨を告げます。
- ② コピー用紙を配布し、4 つに折るよう指示します。
- ③ 自己紹介の項目を全員から募ります。「名前」「住んで地域」は必ず挙がり、3 点目はいろいろな意見が出ます。1 本に纏めなければなりません、それを楽しみましょう。
- ④ 4 等分したコピー用紙に、1 から 4 まで数字を入れ、1 には名前を、2 には住んでいるところを、3 には趣味を書くよう指示します。(項目は例)

(例)

1) 名前 千代田 さくら	3) 趣味 野菜づくり
2) 住んでいるところ 千代田区九	4) なぜこの講座に 参加しようと思 ったのか？

⑤ 4点目はファシリテーターが提示します。たとえば、「なぜ、この講座を受けようと思ったのか」。この項目は書くと時間がかかるので口頭でのみの発表とし、4項目まとめて制限時間を1分とする旨を伝えます。

⑥ 各グループ内で発表者の順番を決めてもらい、いよいよ自己紹介が始まります。発表者には、記入したB4用紙をグループメンバーが見えるように、とくに、名前が見えるように、他者への心配りを促しましょう。



♪ 注意点

こちらからの一方的な指示に従っていただくのではなく、講座全体をみんなで作っていくという姿勢を共有したいと思います。この姿勢を、「自己紹介」をするという合意を得たり、自己紹介の項目を全員の話し合いで決めたりする過程から汲み取っていただけるように進めていきたいものです。

進め方② では、縦に折る人、横に折る人、縦横に折る人などがあり、折り方が違う人がいる点が興味深いところです。受講者も多文化である点を取り上げ、日本人であっても人それぞれさまであることをさりげなく気づいていただき、どのような折り方でもいいことを伝えたいと思います。

♪ やってみて

- ・自己紹介の項目は、「名前」「どこに住んでいるか」と「趣味」または「今、はまっていること」でした。
- ・初めての方々のグループでは、姓が同じであったり名前が同じであったりする人がいらっしやり、そこからグループの会話が広がりました。
- ・住んでいるところでは、地域のボランティア養成講座であるにもかかわらず、片道1時間15分かけて講座に通う人がいて、メンバーを驚かせ、メンバーから次々と質問が出ていました。

- ・趣味では、活動仲間としていつも顔をあわせていたけれど、初めて知ったということもあるようです。「〇〇さん、ギターが弾けるの？すごい！今度のイベントでぜひ、弾いてください」と、さっそくリクエストが出ていました。
- ・最後の項目では、みなさん、真顔になられ、聞く人も熱心に聞いていらっしゃいました。

♪ 期待できること

新たにスタッフを迎えることはないでしょうか。以前から参加している旧知の人たちの中に飛び込んできた新しいメンバーは緊張しているかもしれません。

あるとき、「父は転勤族だったので何度も転校しました。そのたびに、みんなの前で私ひとりだけ自己紹介をさせられた。みんなは私をジロジロ見ている。みんなは前から知っているクラスメイトで、私だけがみんなを知らない。なのに、みんなを知らない私だけが自己紹介をさせられる。腑に落ちなかった」という人がいました。新しい人がやって来たらその人だけが疎外感を抱かなくていいように、全員参加の方法として、スタッフ間でやってみるのはいかがでしょう。



部屋の四隅

ボランティア養成講座では、見知らぬ人たちが集まってきます。講座を修了すれば、同じ活動の仲間になる方たちですが、最初はお互いにどのような人かわからず、不安が先立ちます。リラックスして安心して講座を受けられるよう場づくりに工夫をしたいものです。お互いがお互いを認め合い、尊重しあう関係づくりの一步に部屋の四隅はいかがでしょう。

♪ 準備

- ・質問項目を作ります（4つくらいが適当）。
- ・会場には5，6人のグループで話し合いができるよう、机、いすを配置します。
また、全員が部屋の隅まで移動できるように通路になるスペースを作ります。

♪ 進め方（ファシリテーターの役割）（質問事項は一例です）

- ① 会場の受講者全員に質問をし、移動してもらいます。

Q1：お宅からこの会場まで、どのくらいかかりますか？

10分までの方はこちらに（会場の一隅をさす）

20分までの方はあちらへ（会場の別の隅をさす）

30分までの方はあちらに（さらに、会場の隅をさす）

それ以上の方はこちらに（会場の隅をさす）

全員が移動し終わったら、全体を見渡し、どのような受講者の集まりかを概観してもらいます。そして、「10分までのグループ」「それ以上のグループ」にお互いをどう思うかと尋ねたり、各コーナーの数名にどこから来ているかなどを訊いたりして、全員参加の場をつくっていきます。

同時に、日本語教室に集まって来るであろう外国の方に思いを馳せてもらえるように「外国の方はどうでしょうね。この近辺にお住まいの方たちでしょうか」などとつぶやいてみます。必ず、頷いてくださる方がいらっしゃいます。

Q2：お住まいの地域にどのくらい住んでいらっしゃいますか？ その地域は

10年後、今より住みやすくなっているでしょうか？住みやすくなっていると思いますか？

とてもそう思う

まあまあそう思う

あまりそう思わない

全然そう思わない

各隅のグループから2，3名にその理由を尋ねます。「外国の方はどうでしょうね。新しくこの土地にやって来る外国人にとって、この土地はどのようなところでしょう

う？」などつぶやきます。

Q3：日本語は好きですか？

- とても好き
- まあまあ好き
- あまり好きじゃない
- ぜんぜん好きじゃない

「外国の方はどうでしょうね」と言いながら各隅に集まった人、数人に「なぜ、この隅を選んだのか」を尋ねます。



Q4：ボランティアを色にたとえたら？

- 赤
- 白
- 青
- その他

各隅、数人にその色を選んだ理由を尋ねます。また、「その他」を選んだ人には何色か、そして、その理由を尋ねます。

- ③ 全員、着席し、フィードバックをします。この活動をしてどのように感じたか、どんなことを考えたかを話し合います。
- ④ 各グループで話し合ったことをそれぞれのグループは簡単に発表し、会場全体で共有します。

♪ 注意点

ファシリテーターは会場が和むよう、ことば選びに工夫し、どんな発言に対しても肯定

的に聞き、批判したり自身の意見を差し挟んだりしないように進めるといいと思います。質問は、数も内容もその場に即したものを考えてください。ここに示したものは、ほんの一例です。

♪ やってみて

会場を移動することによって、ダイナミックな動きが会場に起こり、各隅に集まる人数がその都度、異なります。そして、移動した理由は興味深いものです。

あるとき、自治体主催の講座でしたが、全員が Q2 に対し、「あまりそう思わない」

「ぜんぜんそう思わない」に集まり、主催者が驚かれたことがありました。その理由は地域のインフラ状況にありましたが、全員が同じ理由を挙げられました。

別の地域の自治体主催の講座では、「とてもそう思う」方が多く、若い方が「自分たちで、より住みよい地域をつくる」とおっしゃり、拍手が沸き起こりました。主催者は大変、感激していらっしゃいました。

Q4 もお聞きすると楽しい返答が返ってきます。各隅に別れた方たちが、異なる隅からの発言に肯定的に頷かれる姿が見られました。

フィードバックでは、会場を移動することで自分の考えに気づいたとか、別の隅の人と考えていることは同じだと思った、自分や他の受講者を知る活動だったなどが聞かれました。

また、ボランティア養成講座の初日でしたが、緊張していたが、体を動かすことで緊張がほぐれ、グループの方たちとリラックスして話し合えた。そして、その後の講座が楽しみになったとの意見もありました。

♪ おまけ

毎回、顔を会わせよく知っているつもりスタッフ同士が、質問を入れ替えることで何度も楽しむことができます。思わぬ発見があり、お互いを再認識することもあるでしょう。



誕生日の輪

♪ 準備

会場に、全員が立ってまるく円が作れるようなスペースを考えておきます。

♪ 進め方

- ① 「お誕生日がありますか?」「では、お誕生日の順に並びましょう」と明るく声をかけ、今から何か楽しいことが始まるとの予感呼び起こします。
- ② 「ここが1月」「ここが6月」「ここが12月31日です」「では並んでください」と円状におおよその位置を示します。
- ③ 「しゃべってはいけません。ジェスチャーは大丈夫です」とルールの説明をします。
- ④ 「では、どうぞ、並んでください」
- ⑤ 並び終わったら、確認しましょう。1月の一番はやい人から順番に自分の誕生日を発表します。
- ⑥ 最後に、これをしてどうでしたか?と全体に軽く問いかけ、感想やフィードバックを募ります。



♪ 注意点

やりたくない人がいたらその気持ちを尊重しましょう。

♪ やってみて

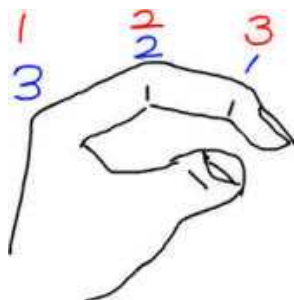
- ・ジェスチャーだけのコミュニケーションに、最初は全員が真剣な表情で取り組みましたが、そのうち順序を確かめ合う人たちの間に微笑が交わされたり、右往左往する人にジェスチャーでアドバイスしたりと関係が生まれていきました。
- ・同年、同月、同日の人がいて、驚きの声があがり、場が賑やかになりました。
- ・誕生日が祝祭日であったり、2月29日であったりといろいろな人がいて話題が膨らみました。
- ・自分の立ち位置が間違っていたことに気づいた人が全員の笑いを誘発し、場を和やかにしてくれました。
- ・「誕生日がない」と言って参加しない人がいました。このような発言を受け入れることが関係作りには大切だと思います。活動が終わった後、「どうしてお誕生日がないのか、できれば聞かせていただけますか?」と伺ってみました。その人の意見を聞くことは「異文化・多文化」の受容として非常に貴重な機会だと思います。
- ・数字をジェスチャーで表現しながらの活動ですが、指を使った数字の数え方にも異文化、多文化があるとの指摘があり、その紹介に興味深く聞きました。

♪ 期待できること

お誕生日が近かったり、特別な日であったりなど、ちょっとしたことからお互いへの親しみがわくでしょう。

[さまざまな指を使った数え方]

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E6%8C%87%E3%81%AF%E6%95%B0%E3%81%88%E6%96%B9&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>



KJ 法で話し合おう

地域日本語教室のボランティアが同じ方向を向き、目標や目的を共有し、それに共感していなければ教室は宙に浮いてしまうでしょう。そのために問題解決を目的にミーティングが行われますが、話し合いは民主的なようで、そうでない場合もあります。遠慮がちな人は声の大きい人、話のうまい人などに圧されて発言の機会を失うこともあるでしょう。また、新しく参加した人は先輩の前では意見を言いにくい場合もあるでしょう。また、話し合いというものは、ときに熟考型の人には他の人たちとのタイミングが合わず、発言の機会を失う場合もあるでしょう。

すべての人が平等に公平に熟考して発言できる場を創るための装置として **KJ***法はいかがでしょう。ボランティア養成講座ではお互いの考えなどを知り、親しみを感じ、関係性を深めることを目的に **KJ** 法で考えを整理し、話し合っています。

♪ 準備

- ・ 6 人でひとつのグループが作れるよう、机と椅子を配置する
- ・ 5 cm 角くらいのポストイット、多量
- ・ 模造紙（各グループに 1 枚）

大き目の使用済みカレンダーの裏（白紙）でも可、A3 のコピー紙数枚も可

- ・ マーカー（各グループに数本）
- ・ 話し合いテーマ

♪ 進め方

ファシリテーターは

- ① 各グループにポストイット、模造紙、マーカーを配布します。
- ② 話し合いのテーマを説明します。
- ③ テーマについて、思うこと、考えることをポストイットに書き出すよう、その際、一項目を 1 枚のポストイットに書くよう指示します。

※ **KJ**法とは、蓄積された情報から必要なものを取り出し、関連するものをつなぎあわせて整理し、統合する手法の一つです。カード（紙片）を活用するところに大きな特徴があり、内容や質がまちまちな情報をまとめ、全体を把握するのに有効な技法です。日本の文化人類学者・川喜田二郎氏（元東京工業大学教授）が考案した創造性開発（または創造的問題解決）の技法で、川喜田氏の氏名の頭文字をとって“**KJ**法”と名付けられています。

https://www.tfu.ac.jp/liaison/edu/navi_PDF/navi06-04.pdf#search='KJ%E6%B3%95' (2015 年 2 月 24 日検索)

グループメンバーは

- ① グループ全員のポストイットを模造紙に張り出し、整理、分類をします。
- ② 分類できた項目にネーミングをします。
- ③ 各グループは、他のグループに向かって模造紙を見せながら、自分たちの考えたこと、話し合った結果を説明します。

♪ 注意点

ある程度の時間内でも、慣れて来るとどんどん書くことが頭に浮かんできます。
グループで数人が書き始めると、全体に勢いがつくようです。ファシリテーターはみんなが書きやすくなるよう、リラックスできるよう勇気づけ、エールを送りましょう。

♪ やってみて

本事業によるボランティア養成講座 14 回目では以下を取り上げました。

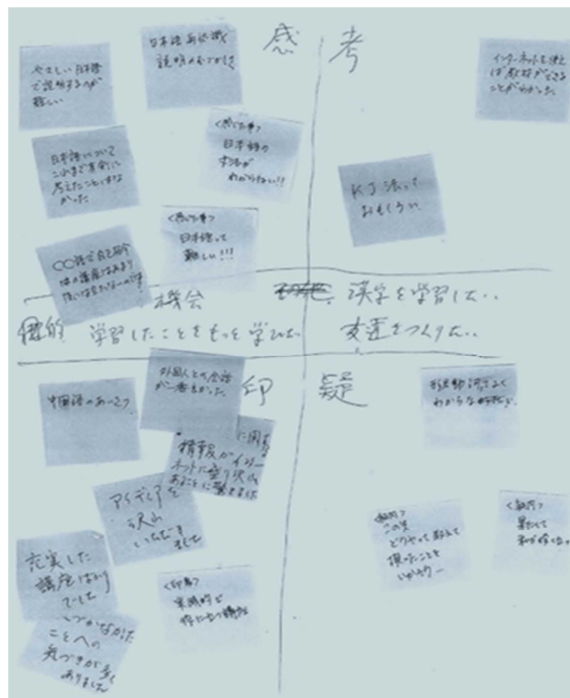
1) これまでの講座のふりかえり

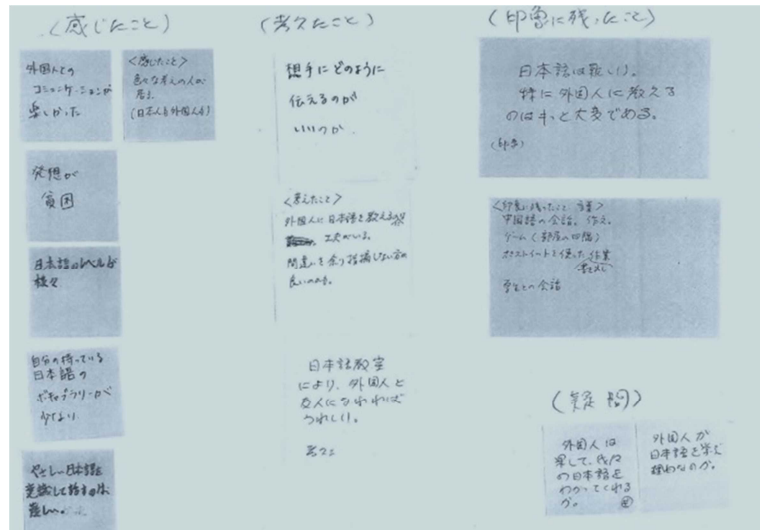
- * 感じたこと
- * 考えたこと
- * 印象に残ったこと／ことば
- * 疑問に思っていること

などなど



メンバーの考えたことが整理、分類されました

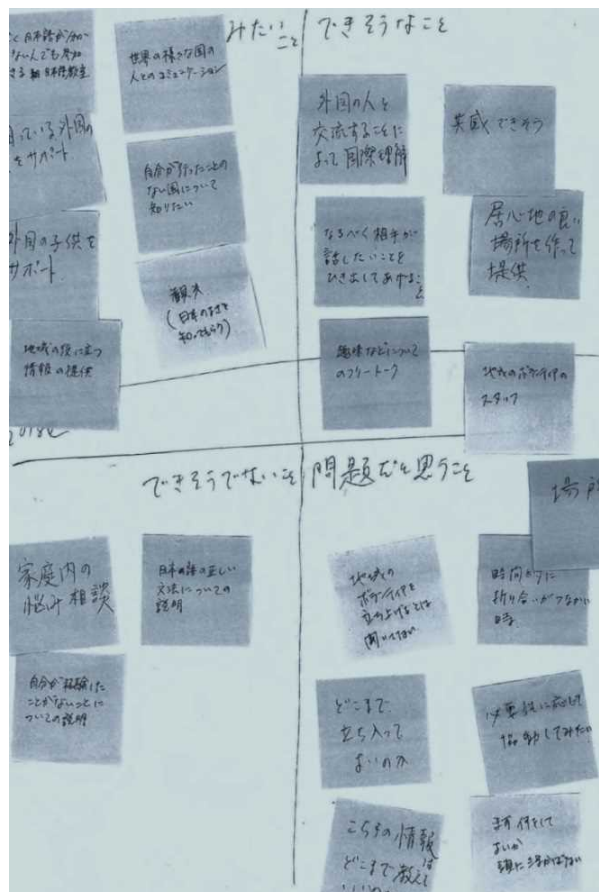


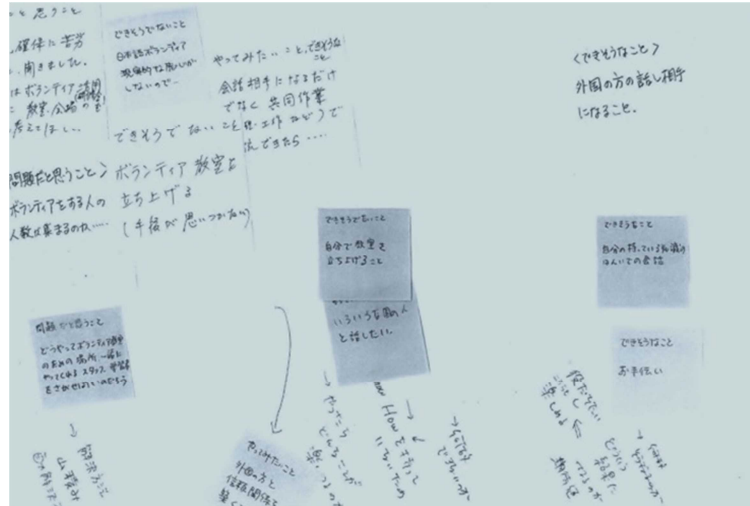


2) ボランティアになって

- * やってみたいこと
- * できそうなこと
- * できそうでないこと
- * 問題だと思うこと などなど

メンバーの考えたことが整理、分類されました





ポストイットに書き出す作業はひとりで静かに自らの考えを見つめる内省の時間であり、続く分類の作業は、「多方向的に意見交換」※をしながら、自分の考えをまとめる時間です。メンバー全員が、「頭の中で作った意見を出力するのではなく、しゃべりながら考えて結論にもっていく生成的な言語活動」に参加し、「他人の話を聞いて『そういえば』』と思いつく「知性の発動」を楽しみ、「頭をひっかけ回して活性化する」場を共有することにより、お互いを尊重し合う関係が生み出されるように思えます。地域日本語教室が全員の学びの場である所以がこの点でも言えるのではないのでしょうか。（「知でつながる②」2015年1月6日東京新聞夕刊）

スタッフミーティングではときどき、次のような項目で考え、全体で話し合う材料にします。いつもその日その日の活動に流されているスタッフですが、ときに日ごろの思いを共有し、教室を見直し、スタッフ間の関係を深めるのはいかがでしょう。

※ 最近

- ・思うこと
- ・考えること
- ・感じること
- ・うれしいこと
- ・困っていること

などなど



※ 内田樹「知でつながる②」（2015年1月6日東京新聞夕刊記事）

いいところ探し

♪ 準備

- ・会場は、6人くらいでひとつのグループになり、お互いの顔を見ながら話し合えるよう机と椅子を配置しておきます。
- ・A4 または B4 コピー用紙を各人に一枚ずつ用意します。

♪ 進め方

ファシリテーターは

- ① 全員にグループ内の人をよく知っているかどうか確かめます。
もし知らないという人が多ければ、「では、どうしましょう？何をしましょう？」と問いかけます。
- ② 「自己紹介」という返答を得て、ひとり1分の自己紹介を提案します。そして、その中に、例えば「なぜ、ここに参加しているのか？」を織り込むよう指示します。
- ③ コピー用紙を配布し、折り方を説明（図参照）します。
- ④ 最下段に名前を書くよう指示しますが、「名前にはニックネームやトレードマークを加えたりして自分を印象づける工夫もどうぞ」などと楽しさを演出します。
- ⑤ ファシリテーターは「最上段に自分のいいところを書いてください。たくさんあるでしょう。時間の限り書いてください」と指示します。

メンバーは

- ⑥ 自分のいいところを書きます。
- ⑦ ファシリテーターの指示に従い、今、書いた最上段を後ろに折って見えないようにし、時計まわりに隣の人にまわします。
- ⑧ 新たに最上段になった箇所に最下段に書いてある人のいいところを書きます。
- ⑨ 以上を繰り返し、戻ってきた自分の用紙を読みます。
- ⑩ ファシリテーターの指示にしたがい、これをしてどう感じたかをグループ内で話し合います。



自分のいいところを書く	後ろに折る
	隣の人のいいところを書く
自分の名前	隣の人の名前

♪ 注意点

スムーズに紙がまわるよう、また、どの人にとっても公平になるよう、書く時間はたとえば、ひとりにつき1分と決めます。

♪ やってみて

- ・「自分のいいところ」と聞いて「考えたことがない」と戸惑う人がいました。けれど、「筆が進んでいる人がいます」「すごいですね、たくさん書いていらっしゃいますね」などと実況中継すると、そのうちペンが動いてきました。
- ・最初は、要領を得ないからでしょう。ペンの動きが活発ではないのですが、次第に動きがはやくなり、文字数が増えていきました。
- ・自分の元に戻ってきた用紙を広げて読み始めるときは、表情が硬いのですが、そのうちにくすくす笑いが起こり、頬が緩み始め、次第に歓声があがってきました。
- ・「うれしい」の声が聞こえ、各グループの中では「ありがとう」が交わされていました。
- ・全員が用紙を見せ合い、賑やかに談笑するグループがありました。
- ・「自分のいいところって考えたことがない」という人が何人かいました。
- ・「宝もの」、「家に帰って家族に見せたい」、「自信を喪失したときはこれを見ます」など喜びのことばが聞かれました。
- ・「日本社会はけなす社会で、人の足りない面を見ようとする。いいところを見ようと心掛けたい」という人がいました。



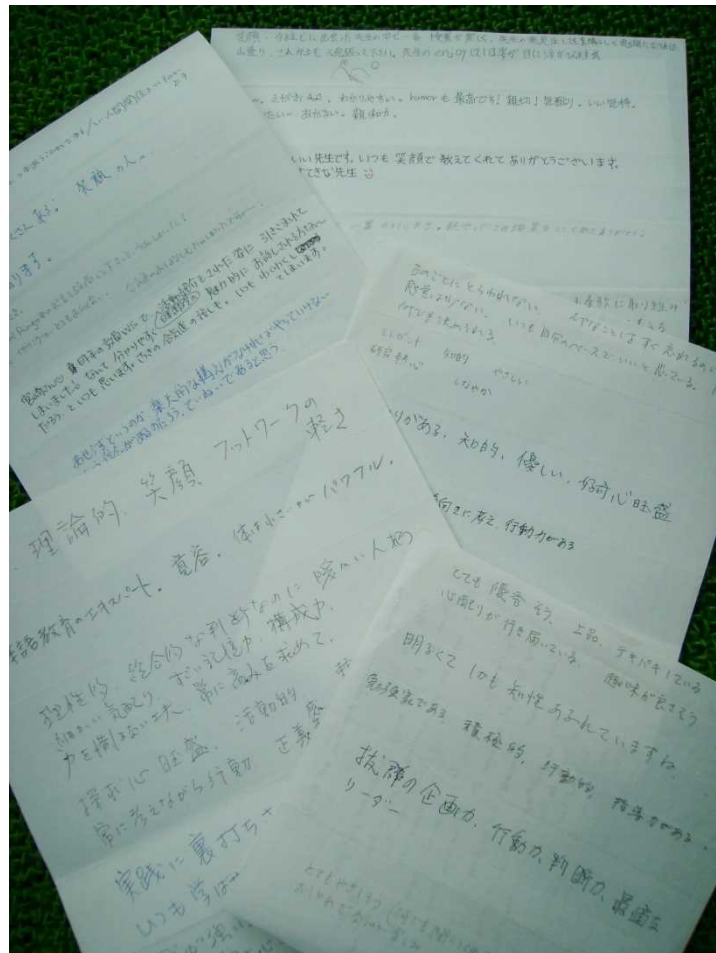
♪ 期待できること

- ・全員が幸せな気分になれるでしょう。
- ・自分のいいところを自覚することは自己肯定感に繋がるでしょう。
- ・他者のいいところを見ようとする姿勢は、よい人間関係づくりの一步であることに気付くことができるでしょう。

♪ おまけ

ある程度、日本語が書ける人たちなら、教室でも使えます。

♪ 写真は実物の一部です。



物語を作ろう



写真：国際交流基金「みんなの教材サイト」より

♪ 準備

写真 1 セット 6 枚をコピーします。

(各グループに B4 サイズを 1 セットずつ。場合によっては各人には小さいサイズを 1 セットずつ)

♪ 進め方

- ① 4～6 人のグループ（スタッフも参加）を作り、各グループに 6 枚 1 セットの写真を一枚ずつ配布します。
- ② 各グループは、写真を一枚ずつ見ながら読み解いていきます。
- ③ 写真 6 枚すべてを読み解いた後、6 枚を時系列に並べ、物語をつくります。
- ④ グループは他のグループを訪問し、写真の順序を見比べます。
- ⑤ 各グループは、全体に向かって順序を決めた理由を説明し、主人公がどんな人かなどグループで考えた物語を披露します。

主人公の名前を決め、年齢や住まい、仕事や家族など主人公がどんな人かを話し

合うといいでしょう。ファシリテーターやスタッフは「先生的」な質問（「ここに何がありますか？」とか、「この人はなにをしていますか？」など、答を強要するような質問）をしないよう心がけたいものです。スタッフは、全員が自発的に物語をつくりたくなるような雰囲気作りを工夫しながら、グループメンバーとして参加を楽しむといいと思います。

♪ 期待できること

参加・協働することによって与えられた課題を解決する参加型学習のアクティビティですが、メンバーが話し合い、解決に向かうプロセスを通して、メンバーは互いを尊重しあい、理解を深め、人間関係を深めていくと言われています。

たとえば、自分にはないAさんの豊かな発想にはっとさせられたり、これまで気が付かなかったBさんの思いを知ったり、知らなかったCさんの日常生活の一端に触れるということがおこるでしょう。そこから、メンバーに対する親近感が増すでしょう。

日本語学習の点からも次のような効果が期待できると思います。

- ① 写真を見ながらそれぞれが思ったことをことばにする活動は、「自分の言いたいこと」を日本語で表現する自信に繋がるでしょう。

「言いたいことがあるけれど、言い方がわからない」場合は、その場でそれを教えてもらえます。あるとき、ある参加者が言いました。「言いたいことがある。そのとき教えてもらったことばは忘れない。」このような現象が起こるでしょう。

- ② 意見交換をすることにより、自分の知らないことばや表現を他の人から学ぶことができるでしょう。日本語の学びは日本人から外国人への一方向ではなく、外国人同士の学びあいもあることをスタッフは実感できると思います。



♪ 注意点

しゃべりたい人の独壇場にならないよう、グループメンバーが同じように参加できるようファシリテーターは配慮が必要でしょう。よくしゃべる人には他の人の意見も聞くようそれとなく示唆し、黙りがちの人には励ましのことばで発話を促したいものです。

♪ やってみて

[本事業の日本語教室]

2 グループに 6 枚の写真を 1 枚ずつ渡し、1 枚につき 4-5 分程度自由に話してもらいました。このとき、2 グループに渡す写真の順序を変えて、同時に同じ写真を扱わないように仕組みました。

この 6 枚は一人の人物の朝起きるところから夜仕事が終わるくらいまでのシーンなのですが、3 枚くらい見たところで台湾出身者が、これは一日を表している、というようなことを言って、みんなをびっくりさせました。

ボランティアさんは活動に入り込み過ぎて、ついつい我先におっしゃろうとするので、まず外国の方に話してもらいましょう、と注文をつけてしまいました。

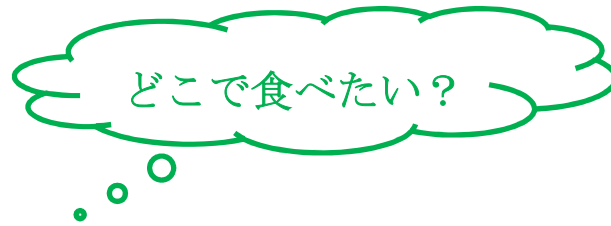
全部の写真を描写した後に、グループのメンバーを半分入れ替えて、6 枚を時系列に並べる作業をグループごとにしてもらいました。そして、人物に名前をあてがってもらいました。ヤマダさん、ということになりました。

2 グループともほぼ同じでしたが、朝ご飯を食べるシーンと改札を通るシーンが入れ替わっていました。この並べる作業も、日本人がさっと手を出していたので、まず参加者のみなさんに並べてもらいましょう、と注意。

並べ終わったところで、全員立ち上がり、2 つの流れを見て、各グループ参加者一人にヤマダさんの一日を報告してもらいました。そして残りの二人にそのほかのことについて報告してもらいました。たとえば、「やまださんはきれい好きだと思います」とか「ヤマダさんはあたまがいいと思います」とか、「独身だと思います」とか「はりきって仕事をします。ほかの人は帰りますが、ヤマダさんは残業しています」などなど。今回も学習者はたくさん話し、たくさん聞いて、メモもたくさんとっていたようです。

♪ おまけ

写真はこれとは限りません。スタッフが持ち寄ってもいいでしょう。参加者に募ってもいいでしょう。写真を組み合わせ、物語をつくるというゴールに向かってメンバーが話し合う作業になれば楽しいと思います。



食べる話はみんな好き、どこでも盛り上がります。一味違った「食べる」をテーマの活動はいかがでしょう。



<バージョンA：人数が多いとき>

♪ 準備

参加者のグループ（3人以上、6人までがいいでしょう）を作ります。

写真4枚*のセットをグループの数だけコピー（B4くらいに拡大）します。

♪ 進め方

- ① 写真を1セットずつ、グループに配布します。

*上の2枚は国際交流基金「みんなの交流サイト」より、下の2枚は

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E7%AB%8B%E3%81%A1%E9%A3%9F%E3%81%84%E5%86%99%E7%9C%9F&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E5%B1%85%E9%85%92%E5%B1%8B%E3%81%AE%E5%86%99%E7%9C%9F&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

② 写真の読み解き

グループ全員で写真を一枚ずつ見、話し合いながら読み解いていきます。

③ ランキング

グループで「食べに行きたい順」に写真を並べます。

④ 全員集合

各グループの「食べに行きたい順」を全員で見比べ、同じ順序があるかなど話し合います。

⑤ 発表と質疑応答

各グループは、他のグループに並べた理由を説明します。

⑥ ふりかえり

グループに戻り、これをしてどう感じたかなどを話し合います。

〔バージョン2：人数が少ないとき〕

♪ 準備

参加者のグループ（3人以上、6人までがいいでしょう）を作ります。

写真4枚のセットをグループの数だけコピー（B4くらいに拡大）します。

さらに、各人に縮小サイズを1セットずつコピーします。

♪ 進め方

① 大きい写真を1セットずつ配布します。

② 写真の読み解き

グループ全員で写真を一枚ずつ見、話し合いながら読み解いていきます

③ 縮小写真の配布

縮小サイズの写真を各人に配布します。

④ ランキング

各人は「食べに行きたい順」に写真を並べます。

⑤ 全員集合

全員で同じ順序があるかなど話し合いながら見比べます。



⑥ 発表と質疑応答

各人は全員に向かって並べた理由を説明します。

⑦ ふりかえり

全員で、これをしてどう感じたかなどを話し合います。

♪ 期待できること

与えられた課題をメンバーが協力して解決する参加型学習のアクティビティですが、「メンバーが話し合い、解決に向かうプロセスを通して、メンバーは互いを尊重しあい、理解を深め、その結果、人間関係が作られていく」と言われています。

たとえば、自分にはないAさんの豊かな発想に驚いたり、これまで気が付かなかったBさんの思いを感じ取ったり、知らなかったCさんの日常生活の一端に触れたり、ということがおこるでしょう。そこから、メンバー間の親しみが増し、尊敬の念がうまれることと思います。

日本語学習の点からも次のような効果が期待できると思います。

- ① 写真を見ながらそれぞれが思ったことをことばにする活動は、「自分の言いたいこと」を日本語で表現する自信に繋がるでしょう。
- ② 「言いたいことがあるけれど、言い方がわからない」場合は、その場でそれを教えてもらえます。ある参加者のことばです。「言いたいことがある。そのとき教えてもらったことばは忘れない。」
- ③ 意見交換をすることにより、自分の知らないことばや表現を他の人から学ぶことができるでしょう。日本語の学びは日本人から外国人への一方向ではなく、外国人同士の学びあいもあることがスタッフは実感できると思います。

♪ 注意点

しゃべりたい人の独壇場にならないよう、グループメンバーが同じように参加できるよう配慮が必要でしょう。よくしゃべる人には他の人の意見も聞くようそれとなく注意し、発言の少ない人には励ましのことばで発話を促しましょう。



また、スタッフは「先生的」な質問、つまり、「ここに何がありますか？」とか、「この人は何をしていますか？」など、見てすぐわかることに対して答を強要するような質問は避けましょう。グループの全員が自発的に参加できるような雰囲気作りを工夫したいものです。

♪ やってみて

〔本事業の日本語教室〕

まず、全体に向けて4枚の写真（カラー、B4サイズ）を見せ、かんたんに写真について話してもらいました。

高級店、ファミレス、立ち食い店、居酒屋の4枚です。

高級店を見て、何料理でしょう、と想像してもらおうと、オランダからの参加者が「イタリア料理」と言ったのはおもしろかったです。日本人ならフランス料理、と出てくるかもしれませんが、彼は常日頃からフランス人、フランス、に対してあまり快く思っていないという発言があるのです。内心、おお、また出たか、と思いましたが、にこやかに「そうですか〜」と応じて次の写真へと進みました。4枚終わったところで、全員に4枚セットを配り（白黒写真、B6サイズ）、各自の判断で好きな順に並べてもらいました。そして、2つのグループをさらに2つに分けて4グループとし、グループ内でそれぞれのメンバーのランクづけを見合い、理由を述べたり自由に話す、ということをしました。

3時57分で授業を終了としました。参加者の一人は、「ええ？もう？！」と言っていました。今回も参加者はたくさん話し、たくさん聞いて、メモもたくさんとっていたようです。

〔他地域の日本語教室で〕

ファミレスは子どもがいてうるさく、日常的過ぎると言う人もいれば、メニューに写真があってわかりやすく値段もまあまあだから好きという人もいます。一方、若いお母さんたちはときには静かに優雅に食事がしたいと高級レストランに憧れます。駅の立ち食いソバに一度入ってみたいけれど勇気がないと言う人がいます。みんな、ひとりで食べていて寂しそうだと言う人もいます。逆に、居酒屋は賑やで楽しそうと言う人、畳に座るのが面白そうと言う人、座るのはダメな人もいます。みんなそれぞれに考えがあり、言いたいことがあり、人の話を聞いたら「そうそう、私も・・・」と話したくなり、話が途切れることがありませんでした。

♪ おまけ

写真はこれとは限りません。回転ずし、お好み焼き、ラーメン屋などネットで写真を取り出してやってみるのも楽しいでしょう。また、食べ物以外のさまざまなテーマでランキングすることも可能です。課題解決に向かってメンバーが話し合う作業になれば楽しいと思います。グループの協働作業として、グループの全員で話し合っ





誕生日の輪

♪ 準備

会場は、全員が立って円になれるようなスペースを考えておきます。

♪ 進め方

- ① 「お誕生日がありますか?」「では、お誕生日の順に並びましょう」と明るく声をかけ、今から何か楽しそうなことが始まるとの予感を呼び起こします。
- ② 「しゃべってはいけません。ジェスチャーは大丈夫です」とルールの説明をします。
- ③ 「ここが1月」「ここが6月」「ここが12月31日です」「では並んでください」と円状におおよその位置を示します。
- ④ 「では、どうぞ、並んでください」
- ⑤ 並び終わったら、確認しましょう。1月の一番はやい人から順番に自分のお誕生日を発表します。
- ⑥ 最後に、これをしてどうでしたか?と全体に軽く問いかけ、感想やフィードバックを募ります。



♪ 注意点

やりたくない人がいたら、その気持ちを尊重し、無理強いしないようにします。

♪ やってみて

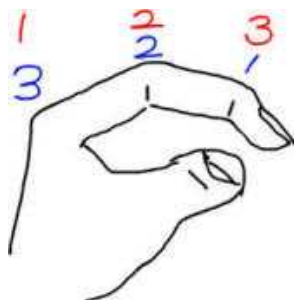
- ・ジェスチャーだけのコミュニケーションに、最初は全員が真剣な表情で取り組みましたが、そのうち順序を確かめ合う人たちの間に微笑が交わされたり、右往左往する人にジェスチャーでアドバイスをしたりと関係が生まれていきました。
- ・同月、同日の人がいて、驚きの声があがり、場が賑やかになりました。
- ・誕生日が祝祭日であったり、12月25日や2月29日であったりといろいろな人がいて話題が膨らみました。
- ・自分の立ち位置が間違っていたことに気づいた人が全員の笑いを誘い、場を和やかにしてくれました。
- ・数字をジェスチャーで表現しながらの活動ですが、指を使った数字の数え方にも異文化・多文化があるとの指摘がありました。その紹介に興味深く聞きながら、いろいろな数え方をみんなで試してみました。

♪ 期待できること

お誕生日が近かったり、特別な日であったりなどちょっとしたことからお互いへの親しみがわくでしょう。

[さまざまな指を使った数え方]

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E6%8C%87%E3%81%AE%E6%95%B0%E3%81%88%E6%96%B9&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>



わたしの宝もの

だれでも大切なものを持っていると思います。日常、当たり前すぎて見過ごしているものごとに改めて目を向け、その大切さに気付く活動はいかがでしょう。他の人の宝ものから自分の宝ものが再発見できるかもしれません。

♪ 準備と進め方

グループ活動です。4～6人くらいがいいでしょう。

・1回目：ブレインストーミング

とっさに宝ものと言われたら困るでしょう。そこで、まず「大切なもの」についてブレインストーミングをします。みんなで「大切なもの」「宝もの」は何だろう、自分にとって、世界にとってと膨らませられるといいと思います。人の話を聞いているうちに、「そう言えば※」と思いつくことが出てくるでしょう。自分の頭の中を活性化して「大切なもの」を考える時間です。

・2回目：発表

考えた宝ものを5つ（いくつでもよい）、用意して持ってきます。もちろん持参できないものもあるでしょう。それをどのように伝えるか、参加者のユーモアやセンスを輝かせるチャンスです。一人ひとりがグループ内で発表しますが、時間的余裕があれば、教室全体で発表会をするのも楽しいと思います。

また、全員がポストイット一枚に1項目ずつ5項目（適宜）を書き出し、それを大きなホワイトボードに貼り、カテゴリー別にグループ分けしていくと、共通の宝もの、個別の宝ものが見える化され、興味深い活動になります。

♪ やってみて

〔本事業の日本語教室〕

本事業による「日本語教室ボランティアのためのスキルアップ研修」受講者がボランティアとして参加し、それぞれの宝ものをノートに記してくださいました。家族や友だち、彼女、教育、健康、日本語（学んで得た知識と運用能力）、指輪や時計、ケータイなどがあげられました。



※ 「教材作成にあたって」 p.1 参照

〔他地域の教室〕

宝ものに「自尊心」と書いた参加者がいました。中年の男性で、日本人の奥さんに連れられて日本にやって来たばかり。ことばも通じない、仕事も決まらない状況での日々は辛いものだったのでしょうか。辞書をひいてこのことば「自尊心」を探し出しました。



日本人が多く集まるイベントで発表会をしたことがあります。見知らぬ日本人を前に日本語で発表するのは勇気のいることでしょう。けれど、発表が終わると、会場から大きな拍手が湧き上がり、それが発表者の自信に繋がっていったように思います。あるとき、「この子がわたしの一番の宝ものです！」とお子さんを抱きしめた女性がいましたが、拍手喝采を浴びていました。

♪ 期待できること

とかく「外国人は違う」と思いがちな日本人にとって、「外国人も日本人も同じだな」と感じるができる機会になるかと思います。一方で、「外国人」を感じさせる「大切なもの」もあります。在留カードやパスポートなどですが、とくに、在留カードは私たち日本人には思いつかないものです。「外国人も日本人も同じ」であるはずなのに、日本に暮らす外国人には「必要なもの」があることに気づき、改めて法的な違いを実感させられます。

♪ 注意

したくない方には不参加の自由もあります。強制しないよう気をつけたいと思います。





ありがとうカード

いっしょに日本語を学習している仲間にときどき感謝のメッセージを贈るのはどうでしょう。日本語教室が1期、2期などに分かれているなら、その最後の日に。一年を通じて行われている教室なら、8月のお盆休みの前とか、暮のお正月休みの前とかに。

本事業による「地域住民と外国人の相互理解を支援する日本語講座」では最終回の前の回にありがとうカードを贈り合いました。

♪ 準備

- ・ありがとうカード（下図）を各人に一枚
- ・大きいポストイット（いろいろな色）をひとりに数枚

♪ 進め方

- ① 用紙の真ん中に、自分の名前を書きます。
- ② グループメンバーの一人ひとりに宛て、ポストイット一枚にメッセージを書きます。メッセージは、その人のいいところ、その人がしてくれたことへの感謝など書く人がやさしい気持ちになれ、貰った人がうれしくなるようなものを書きましょう。
そのために、ブレインストーミングをして事前に話し合っておくとよいでしょう。
- ③ AさんへのメッセージをAさんのありがとうカードに、BさんへのメッセージをBさんのありがとうカードに貼り付けます。
- ④ メッセージを読んで感想を述べ合います。

♪ 期待できること

他者の「いいところを見つけよう」、いつも「ありがとうの視点を持とう」との姿勢が人と人との関係をやさしいものにすることに気付くでしょう。

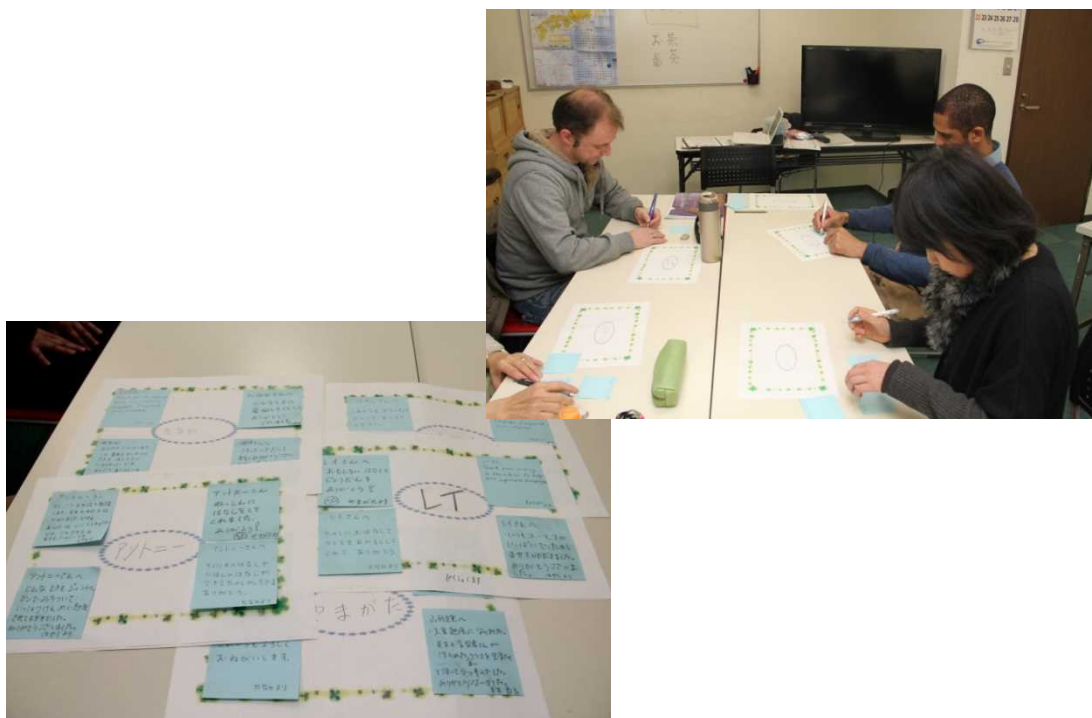
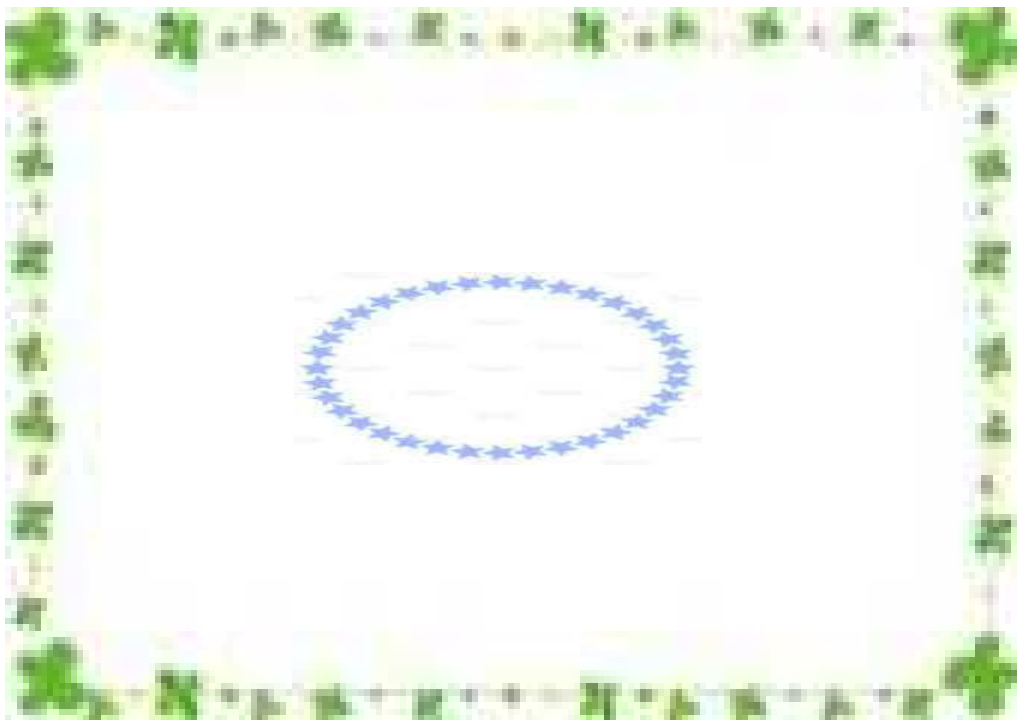
♪ 注意点

日本語での表記が難しい参加者は書ける文字で書いてもいいでしょう。日本語のことばがわからない参加者は部分的に母語を使ってもいいでしょう。だれかが訳してくれる、そのような関係が教室内にあればいいですね。そのような関係づくりもスタッフの大きな役割ではないかと思います。

♪ やってみて

書いているときの真剣な顔とカードをもらって読むときの表情の落差、人間っていいなとつくづく思います。だれからともなく「ありがとう」が聞こえてくる教室です。

(カードの例)





ふりかえり

各期の最終回に、あるいは、夏休みやお正月休みの前に、書いてもらいましょう。参加者がこれまでの日本語教室をどう思ったか、来期のためにも教室に対する意見やアドバイスも聞きたいですね。「日本語教室はスタッフが作り、参加者はお客さま」ではない、「一緒につくるもの」との考え方を共有したいと思います。

日本語でも他の言語でも構いません。日本語で書いてもらおうと制限され、ほとんどが「ありがとうございました」「楽しかったです」などの挨拶になってしまい、ふりかえりの意味をもちません。「でも、いろいろな言語で書かれたら、私たちが読めない」とスタッフは心配になるかもしれません。日本語教室は多言語集団、教室を巣立って行った先輩たちにも訳を頼むことができます。そのような関係を日ごろの活動から作っておきたいと思います。

記入日：

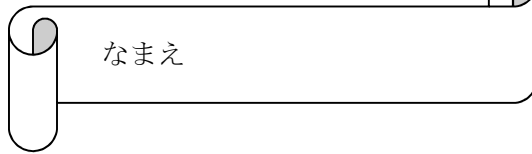
なまえ

(自由記述欄)



当事業での日本語教室には各項目についてフィードバックをするページも準備しました。

「記入日：



♪ おぼえていますか？

＊ みんなで行きました。

- ・ ドラッグストア
- ・ 図書館 （としょかん）
- ・ 消防署 （しょうぼうしょ）
- ・ 防災館 （ぼうさいかん）

＊ みんなで話しました

- ・ 名刺交換 （めいしこうかん）
- ・ フォトランキング「どこで食べたい？」
- ・ フォトランゲージ「物語をつくりましょう」
- ・ わたしの宝もの （わたしのたからもの）

＊ 「何（なに）がしたいですか？（カルテ）」ができましたか？

- 1) 日本語（にほんご）を勉強（べんきょう）したい
話（はな）します 読（よ）みます 書（か）きます 漢字（かんじ）
- 2) 友（とも）だちがほしい
- 3) 情報（じょうほう）がほしい

第3部 教室を飛び出そう

教室を飛び出して、地域を歩いてみませんか？ぶらぶらと散策するのもいいでしょう。地域の施設を訪問したり、見学したりするのもいいでしょう。参加者とスタッフが教室とは異なる空間を共有すれば、一味違った学びが起こり、交流が深まるように思います。

施設の情報は多言語に訳され、インターネットで入手できるものが増えてきました。また、参加者の中には iPad やスマホなどの辞書機能を自在に活用できる人が多くいます。見学前の予習に、見学後のフィードバックにネットからの情報を活用しましょう。

情報はそれぞれのことばで入手し、得た情報について教室の共通語である日本語で話し合う。話し合いの中で、情報を補足しあったり、日本語を修正しあったりして、活動を進めていく参加者たち。

そんな時、教室は学びあいのある場であることを実感します。異文化・多文化の参加者たちが日本語を介してコミュニケーションを図り、関係を作っていく、日本語教室がそのような場になればと思います。

病気になったら

外国で病気になったら不安です。そんなとき、役に立つ情報があればありがたいことでしょう。病気や薬、医療システムなどについて話し合いながら、情報の入手のしかたもみんなですべて学びたいと思います。

1. 話し合い

教材¹「01 健康を保つ」(p.14~20)、「02 薬を利用する」(p.21~27)や「多言語救急シート」²(多文化共生センター作成)、平成25年度文化庁委託事業により作成された「医療センターに行こう」(特定非営利活動法人日本ペルー共生協会作成)などを参考に、身体各部の名称、病気や薬、病院についての語彙や表現を学び、絵を見ながら話し合いましょう。外国人が知っていて、日本人の知らない情報もあるようです。参加者たちの話は非常に興味深く、スタッフは聞き入ってしまいます。

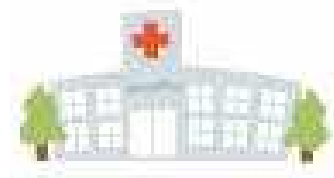
1) あなたは大きい病気をしたことがありますか？



2) 日本で病気になったことがありますか？

そのとき、どうしましたか？

外国語が通じる病院はありますか？



3) 薬はどこで買いますか？

(薬は飲む？食べる？を話題にするのも面白いです)



¹ 平成25年度文化庁委託事業『「生活者としての外国人」のためのコミュニケーション日本語』(九段日本文化研究所・日本語学院 教材チーム)

² <http://www.tabunka.jp/hyogo/119/index.html>

多文化共生センターひょうご

英語版、スペイン語版、ポルトガル語版、中国語版(簡体字、繁体字)、タイ語版、韓国語版、フィリピン語版、アラビア語版、ペルシャ語版など19言語

- 4) 家にありますか？
何が入っていますか？



- 5) 体温はどこで測りますか？
元気なときは何度くらい？
35度？ 36度？ 37度？



- 6) 風邪をひいたら・・・

どうしますか？



- 7) こんな時、どうしますか？



- 8) 救急車の電話番号は？
あなたの住所は？



2. サイトの紹介

多言語で発信している医療関係のサイトがあります。有益な情報は自分のことばで得られるならそれが一番でしょう。情報は自分の言語で入手し、教室での話し合いは教室内の共通語である日本語で進めていけばいいと思います。

とはいえ、Aさんの母語訳はあるけれど、Bさんがわかる言語訳がないという場合もあるでしょう。そんなときは、内容を理解したAさんたちがBさんにできる限り説明してあげる、そのような空気を教室の中に作りたいと思います。外国の方同士のほうがわかりあえる場合もあり、楽しそうに意志疎通している参加者たちが見られます。そんなときの日本語の使い方の巧みさに感心させられることも屡です。

- ・「日本の病院のかかりかた」 東京大学

<http://www.findadoctornow.jp/> 英語、中国語

- ・「健康保険」 AMDA 国際医療情報センター

http://amda-imic.com/modules/useful/index.php?content_id=1

英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語



- ・「問診票など」 AMDA 国際医療情報センター

英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、タイ語、
韓国語、フィリピン語、ベトナム語

- ・「電話による医療通訳」 AMDA 国際医療情報センター

http://amda-imic.com/modules/NewsLetter/index.php?content_id=271

英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、タイ語、韓国版、フィリピン語

- ・困ったことがあったら「外国人のためのリレー専門家相談会」 東京外国語大学

http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/2010/10/post_150.html

日本語、英語、韓国語、仏語、スペイン語、ポルトガル語、ベンガル語
インドネシア語、タイ語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、ビルマ語

3. 本事業による日本語教室では、多言語救急シートの各言語版を配り、語彙や表現を学びました。クラス終盤には全員で近くのドラッグストアに行き、薬などを確認しました。



図書館へ行こう

本事業の一環として開かれた日本語教室は教室を飛び出して、近くにある千代田図書館※訪問を楽しみました。今後、自由に利用できるように、図書館を見学し、カードを作り、利用の仕方を学びました。

1. 訪問前に

教室で予習をしましょう。図書館で使われる語彙や表現などを学びましょう。平成 25 年度文化庁委託事業により作成された特定非営利活動法人日本ペルー共生協会作成の「図書館利用ガイド Japanese」などを参考にすると思います。

* 話し合い

インターネットの千代田図書館を資料にして、「やさしい日本語」を使つての話し合いです。質問や質問のしかたは適宜、必要に応じて変えましょう。

- ・みなさんの国では図書館に行きましたか？よく利用しましたか？
- ・図書館に何がありますか？
- ・図書館で何ができますか？
- ・図書館が近くにありますが、行ったことがありますか？
- ・図書館で何がしたいですか？



※ <http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/facilities/chiyoda/>

2. 見学を終えて

図書館内の地図(下図)を拡大コピーして、グループで見ながら話し合しましょう



* タスクシート

シートには漢字が使われていますが、質問は基本的には口頭でします。気になる場合は漢字にルビを振ってもいいですし、ひらがなにしてもいいでしょう。また、読める人、あるいは読みたい人が読み、文字学習はしたくない人は聞いて話す参加でいいと思います。

月 日

へ行きました

1. 図書館は何階ですか？
2. 何時から何時までですか？
3. 休みはいつですか？
4. (地図の C) この人に会いましたか？
この人と話をしましたか？



5. 図書館でもいいですか？



photo.jp - 12743003



- ① 本を借りる
- ② 本を読む
- ③ ワインを飲む
- ⑥ 大きな声で話す
- ⑦ 歌を歌う
- ⑧ 食べる
- ⑨ 勉強する
- ⑩ 電話する

6. (地図の3) ここで何ができますか? (○ X)



- ・ インターネットをします ()
- ・ 本を読みます ()
- ・ DVD を見ます ()
- ・ ケータイで話します ()
- ・ 食べます ()

7. (地図の4) ここで何ができますか?



* 何ですか?



()



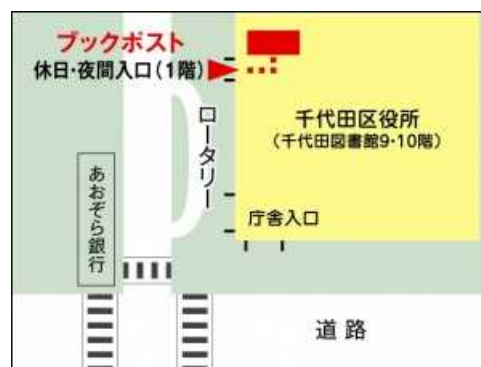
()

* 読みたい雑誌がありましたか?

8. どこですか？ 何をしますか？



9. ブックポストです。
何をしますか？



10. 図書カード

何番ですか？

これから利用しますか？

11. 千代田図書館はどうでしたか？

大きいですか？

広いですか？

便利ですか？

本は多いですか？

あなたの知っている本がありましたか？

読みたい本がありましたか？

消防署へ行こう

教室を飛び出して、地域を歩いてみませんか？ぶらぶらと散策するのもいいでしょう。地域の施設を訪問したり、見学したりするのもいいでしょう。参加者とスタッフが教室とは異なる時空を共有すれば、一味違った交流が深まるように思います。見学する前には、施設やそこで何を見学するのかについて、インターネットを使って予習しておきましょう。

本事業による日本語教室が行われた教室の近くに神田消防署三崎出張所¹があります。防災に関心をもち、安心・安全に生活ができるように消防署を訪問し、応急手当の講習を受けました。

1. 教室で

教材²「03 安全を守る」(p.29~39)を参考に語彙や表現を学び、次の絵を見ながら応急手当について話し合います。参加者には多様で豊かな知識があります。それらを引き出しながら、異文化・多文化の発見を楽しみましょう。

* 話し合い（「三崎町出張所」の写真を見ながら）

すべて口頭です。表現は適宜、必要に応じて変えましょう。
インターネットを活用し、絵を見ながら予習をします。

・消防署に行ったことがありますか？

・赤い車と白い車は？

・消防署の仕事は？
(火事と救急)

・今日は救急を勉強します。

- ①包帯での止血法、
- ②心肺蘇生法、
- ③AED の使い方 の講習



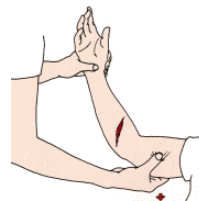
¹ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-kanda/misaki.html>

² 平成 25 年度文化庁委託事業『「生活者としての外国人」のためのコミュニケーション日本語』（九段日本文化研究所・日本語学院 教材チーム）

- ・ ①②③について知っていることは？

- ・ ①包帯での止血法³

血が出たとき、どうしますか？



- ・ ②心肺蘇生法⁴

心臓、肺はどこにある？

それが止まると？

もう一度、心臓が動く、

その方法を知っていますか？

心臓マッサージ、人工呼吸、AED など



- ・ ③AED の使い方⁵

見たことがある？

なにをする？



2. 消防署での講習



3. 教室に帰って「話し合い」

〔本事業日本語教室報告〕

AED の使い方、心臓マッサージ、応急手当（三角巾を使用した場合と身の回りの新聞やネクタイを使ったものなど）を学んできました。

九段日本語研究所には AED の備えはないそうですが、さっそく契約している警備会社にレンタルを聞いてみると校長先生のお話しでした。

参加者のコメントには、「おもしろかったとべんりでした」「very informative」「やくにたちました」などがありました。

³ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~miraikai/shiketu.HTM>

⁴ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/kyuu-adv/life01-2.html>

⁵ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/kyuu-adv/life01-2.html>

防災館へ行こう

本事業による日本語教室が行われた教室の近くに本所防災館¹があります。防災に関心を持ち、安心・安全に生活ができるように防災館を見学し、さまざまな模擬災害を体験しました。

教材²「03 安全を守る」(p.29~39)を使って語彙や表現を学び、災害について話し合います。

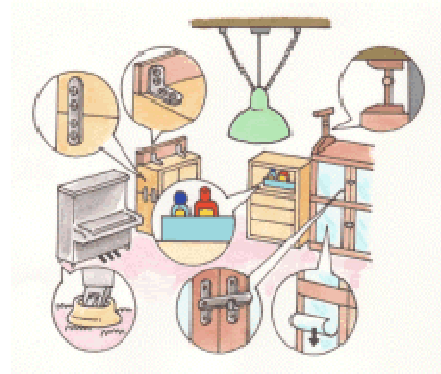
話し合い

- ・あなたの国に地震がありますか？
- ・東京で地震を経験しましたか？そのとき、どうしましたか。
- ・（絵を見ながら）何でしょう。家にありますか。



³ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/>

- ・家の中は大丈夫ですか？



＊ 防災館のホームページを見ながら、何を見、何を体験するのか予習をしましょう。

2. 防災館での体験



煙避難訓練の説明を聞く



消火訓練



煙体験



地震体験



暴風雨体験



防災シアター

3. 教室に戻って話し合しましょう。

- ・役に立ちましたか？ それは何ですか？
- ・クイズで確認しましょう。

絵を見ながら、すべて口頭で行います。絵は拡大し、2, 3 人のグループに 1 枚配布します。話し合うためには、複数で一枚の絵を見るほうが協力態勢がうまれるように思います。

クイズは、臨場感あふれる読み上げ方をすると楽しくなります。もちろん、参加者に読んでもらってもいいでしょう。その際、クイズに使われている漢字が気になるかもしれません。そんなときは、事前にルビをふるとか、一度、スタッフが読んだあとに読んでもらうといいと思います。

防災クイズ

ぼうさいクイズ



Q1: 痛い！助けてください！
救急車は何番ですか？



1) 119
2) 110

Q2: 一日、ひとり
どのくらい、水が
あるといいですか？



- 1) 1000ml
(ペットボトル500ml 2本)
- 2) 3000ml
(ペットボトル500ml 6本)



Q3: 家にいます。あ、地震！



- 1) ドアや窓をあけます。

- 2) 机の下にはいります。



Q4: 建物の中から外に避難するにはど
ちらを使いますか？

- 1) 階段



- 2) エレベーター



Q5: エレベーターの中です。
あ、地震！



- 1) ①のボタンを押します。
1階へ行きます。
- 2) ボタンをみんな 押します。
エレベーターが止まります。
おります。

Q6: 地震がととてもとても大きいです。
どちらが大切ですか？

1) 笛

2) 水



Q7: ビニールのふくろです。
どう使いますか？



- 1) 膨らませて、頭を
守ります。

- 2) 空気をいれて煙を
吸わないようにします。



Q8: 何のマークですか？



- 1) トイレ
- 2) 非常口



Q9: 雷が鳴っています。どこに避難しますか？

1) 木の下



2) 建物の中



Q10: 災害用伝言ダイヤルは何番？

1) 171

2) 111



▶ <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171s/hayawakari.html>



* クイズの答

すべてジェスチャーを使って状況を示します。それぞれのクイズについてどんどん話が広がり、楽しめます。

Q 1 : 痛い！助けてください！救急車は何番ですか？

(ケータイを手にジェスチャーをします)

1. 1 1 9

2. 1 1 0

答：1 1 9 です。1 1 0 は警察です。

Q 2 : 一日、ひとり、どのくらい水があるといいですか？

1. 一日、ひとり 1 0 0 0 ml (ペットボトル 5 0 0 ml、2本)

2. 一日、ひとり 3 0 0 0 ml (ペットボトル 5 0 0 ml、6本)

答：6本です。

Q 3 : 家にいます。あ、地震！どうしますか？

1. ドアや窓をあけます。

2. 机の下に入ります。

答：机の下に入って、揺れ（地震）が終わるのを待ちましょう。

Q 4 : 建物の中から外に避難するにはどちらを使いますか？

1. 階段

2. エレベーター

答：階段

Q 5 : エレベーターに乗っています。あ、地震！ どうしますか？

1. 1 階のボタンを押します。そして、1 階に行きます。

2. ボタンをみんな押します。そして、エレベーターが止まります。

どこでもいいです。エレベーターをおります。

答：ボタンをみんな押します。最初にとまった階でおきましょう。

Q 6：地震がとてとても大きいです。どちらがいいですか？

1. 笛をもちます。そして逃げます。
2. 水をもちます。そして逃げます。

答：水も大切です。けれど、笛があると笛をふいて、「私はここです。助けてください」とほかの人に知らせることができます。

Q 7：これはビニールの袋です（実物を見せる）。どう使いますか？

1. ふくらませます。そして、頭の上に置きます。
2. 空気を入れます。かぶります。火事の煙を吸わないようにします。

答：2です。空気を入れてかぶります。少し、息ができます（ジェスチャー）
煙は少し吸うだけでも倒れます。（ジェスチャー）



Q 8：何のマークですか？

1. トイレ
2. 非常口

答：もちろん非常口

Q 9：雷がなっています。どこに逃げますか？

1. 木の下
2. 建物の中

答：建物の中

Q10：災害用伝言ダイヤルは何番？

<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171s/hayawakari.html>

1. 1 7 1
2. 1 1 1

答：1 7 1です。

<防災に関するアンケート>

本事業の一環として実施された「日本語教室ボランティアのためのスキルアップ研修」受講者有志が講座終了後に日本語教室「ちよだ日本語カフェ Swan」を立ち上げ、その初仕事としてアンケートを実施しました。

同じく本事業「地域住民と外国人の相互理解を支援する日本語講座」の参加者とともに消防署、防災館を訪れ、外国人が地震のことをどの程度知っているか、防災訓練についてどのように考えているかを知ることが目的でしたが、結果がどのように使われるのか興味深いところです。

教室活動にアンケートも面白いと思います。教室の仲間とともに「やさしい日本語」を意識し、アンケートの文言や表記、形式などを検討するのも楽しい作業でしょう。

2015. 1. 31

「ぼうさい くんれん」(Prevention training) の あんけーと(Survey)

(ちゅうい)

こたえ は、English でも よい。

A or B に ついて は、こたえ に ○ を、つけて ください。

(1) う ま れ た く に (Country) は ど こ で す か 。
()

(2) せいべつ (Sex) は？

A. おとこ

B. おんな

(3) こんかい さんか の くんれん のばしょ は？

A. しょうぼうしょ

B. ぼうさいかん

(4) じしん の けいけん は ありますか。

A. あり

B. なし

(5) いま まで に、くんれん を うけた こ と が ありますか

A. あり

B. なし

(6) (5) で A と こたえた ひと——いままで に うけた くんれん と
なに が ちがいますか。

(7) (5) で B と こたえた ひと——なにが さんこう に なりましたか。

(8) にほん では これからも じしん などの さいがい が よそう されます。どうしたら よいでしょうか。

防災訓練に参加した外国人に対するアンケート結果

日時 2015 年 1 月 30 日 (金) 9 時 30 分～11 時 30 分
31 日 (土) 13 時～16 時 10 分

場所 30 日 (金) : 神田消防署三崎出張所、 31 日 : 本所防災館

参加者 外国人 (九段日本語学院生徒) : 11 名
(30 日 : 3 名、31 日 : 10 名、(注) 2 名両日参加)
九段日本文化研究所日本語学院 : 代表および担当講師
ちよだ日本語カフェ Swan : 30 日 2 名、31 日 2 名 (1 名は両日参加)

訓練内容 30 日 (金) : 神田消防署三崎出張所 ①AED 訓練、②三角巾活用訓練
31 日 : 本所防災館 ③煙避難訓練、④地震の揺れの体験訓練、⑤消火訓練、
⑥暴風雨の体験訓練

アンケート内容 別紙—1 のとおり

アンケート結果 (注) 回答者は参加者 11 人中 10 名

(1) 回答者の国籍 (順不同)
レバノン、スウェーデン、アメリカ、イタリア、イスラエル、オランダ、
ベルギー、ブラジル、中国、フランス

(2) 性別 男性 : 6 人 女性 : 4 人

(3) 参加した訓練 ①～⑥ : 2 人、③～⑥ : 8 人

(4) 地震の経験の有無 有 : 3 人 (オランダ、ブラジル、中国) 無 : 7 人

(5) 地震の訓練の有無 有：4人（オランダ、レバノン、ベルギー、アメリカ）
無：6人

(6) (訓練を受けたことの有る人に対して) — 前に受けた訓練との違い

- ・シュミレーションが一番有効 ・実生活の経験が有効
- ・よりリアルな生の体験は自信となる。・昔受けた訓練を思いだした。
- ・過去に溺れたひとを助ける訓練を受けた。
訓練を受けて事前のおぼれ防止対策がわかった。

(7) (訓練を受けたことの無い人に対して) — 何が参考になったか

- ・すべてがすごい。 ・まず自分自身を守る。
- ・今は、どのような災害からも生き残り、他人を助けられる。
- ・今日の訓練は全ての場面の対応に役に立つ。最も良いことは、結果を経験でき、それを予測できることである。
- ・全てが参考になった。今や、冷静かつ心配することなく、災害に対応できると考える。そして支援できる。
- ・火事と地震と嵐を体験しました。全部良かったです。今日は勉強になりました。
- ・自分自身を守り、ついで他人を守ることを知った。

(8) 今後、日本で発生が予想される地震等の災害に対するアドバイス

- ・今日体験したことを要約したマニュアルを、英語で外国人に用意して欲しい。
- ・今や、緊急時に何をすればよいかかわかった。
- ・テーブルの下に隠れ、頭を守る。英語での対応の指示をして欲しい。
- ・空港や駅における手続及び安全な場所についての英語のマニュアルを用意して欲しい。
より、ビジュアルな説明が欲しい。
- ・今日、勉強した知識を利用して、あわてないように行動します。地震の準備も必要です。
- ・英語のマニュアルが欲しい。そして英語で話して欲しい。
- ・英語の説明、英語のサインが必要である。
- ・①机の下に隠れる、②火を止める、③入口のドアを開ける。④安全になるまで待つ。

「教室活動のためのリンク集」

AMDA 国際医療情報センター

http://amda-imic.com/modules/useful/index.php?content_id=1

九段日本文化研究所・日本語学院 平成26年度作成教材

『「生活者としての外国人」のためのコミュニケーションにほんご』

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/seikatsusya/h25/pdf/a_8.pdf

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/seikatsusya/h25/pdf/a_8.pdf

国際交流基金 日本語国際センター 『みんなの教材サイト』

<http://minnanokyoza.jp/>

多文化共生センターひょうご

<http://www.tabunka.jp/hyogo/119/>

千代田図書館

<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp>

東京外国語大学「外国人のためのリレー専門家相談会」

http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/semmer/2010/10/post_150.html

東京消防署

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/>

文化庁

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/seikatsusya/h25/nihongo_program_a.html

防災館

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hjbskan/>

「利用したイラスト素材のリンク集」

素材フリーイラストうがい

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E3%81%86%E3%81%8C%E3%81%84%E3%82%92%E3%81%99%E3%82%8B&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト会議

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E4%BC%9A%E8%AD%B0&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト鍵

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88kagi&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト考える

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%8B&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト健康保険

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88+%E5%81%A5%E5%BA%B7%E4%BF%9D%E9%99%BA&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト在留カード

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E5%9C%A8%E7%95%99%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%89&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト地震

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E5%9C%B0%E9%9C%87&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト人物

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E4%BA%BA&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト体温計

<http://www.terumo-taion.jp/temperature/method/index.html>

素材フリーイラスト話し合い

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E8%A9%B1%E3%81%97%E5%90%88%E3%81%84%E5%86%99%E7%9C%9F&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト図書館

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト乗り物、地図

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E4%BA%BA&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト病気

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E7%97%85%E6%B0%97&oq=&ei=UTF-8>

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%91%E6%80%A5%E7%AE%B1&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト防災

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88bousai%E6%9E%A0&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88%E9%98%B2%E7%81%BD&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=pixta.jp-4368220&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=pixta.jp-%EF%BC%92%EF%BC%94%EF%BC%97%EF%BC%93%EF%BC%91%EF%BC%92%EF%BC%96&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト薬局、ドラッグストア

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%88+yakkyoku&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

素材フリーイラスト指を使った数え方

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E6%8C%87%E3%81%AE%E6%95%B0%E3%81%88%E6%96%B9&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>